

富士山の山小屋を考える

●富士山吉田口旅館組合 講演会開催●



約50名の参加者が出席した講演会

平成19年2月6日(金)、富士山吉田口旅館組合は、「富士山の山小屋を考える」と題して、(財)休暇村協会の鈴木安次氏(前環境省関東地方環境事務所長)を講師に迎え、講演会を開催しました。鈴木氏は講演の中で、自らの富士登山と、山小屋での体験などを交えながら、今後の山小屋のあり方について、4つのポイントを話されました。第一に、リサイクルや自然エネルギーの活用など富士山への環境負荷への配慮。第二に、多様なニーズに合わせた睡眠環境や食事などのサービスの向上を図ること。第三に、富士登山の分散化や山麓なども組み合わせるなど登山形態の多様化を図ること。最後に山小屋の皆さんが、一体となって、富士山を訪れるお客さんに対して、自然のもたらししてくれる感動を伝える取り組みを進めることにより、国立公園における山小屋の新たなモデルになることを期待していることを結びました。

これからも山小屋の皆さんの努力で、より快適な富士登山の環境を整えることにより、登山客に何度も富士山を訪れていただけるようになればと思います。

富士山に戻ってきた溶岩

●溶岩は富士山の一部●

「すみません。持ち帰ってしまいました。富士山へ溶岩を返してください。」と、今年度3回、富士山ボランティアセンターあてに溶岩の入った小包が届きました。富士山の貴重な自然環境は様々な法律で守られており、溶岩を持つて帰ることは、自然公園法などにより禁止されています。このことについて



おかえりなさい 富士山の溶岩

環境省の加藤富士五湖自然保護官は、「溶岩は富士山の一部、もって帰ることは、富士山自体を傷つけてしまうことになる。溶岩を戻してくれた人の気持ちが嬉しい。一人ひとりの力が集まり、みんなでルールを守っていくことで、美しい富士山を残していけたら。」と話しています。返却された溶岩については、富士山ボランティアセンターが大切に富士山に戻しておきます。

マックスバリュ東海の挑戦

●お客と一緒に環境にやさしい取り組み●



富士山の清掃活動

いい営業活動の実施や、お客様と一緒にできる環境保全活動を行っています。

たとえば、●富士山みがきあげ運動。(ゴミの実態調査をしながらの清掃活動)●バイオディーゼル車の試験導入。(車の燃料は、お惣菜の揚げ物の廃油をリサイクルしたバイオディーゼル燃料)●イオンチアーズクラブ発足。(子どもたちが、環境に興味をもち、未来の自然環境を考える力をつけてもらうためのクラブ、現在、静岡県内で2つのクラブ発足)などです。

「お客様と同じ地域社会の一員として何かできることはないか。」と、常に社会情勢の変化に対応し、環境にやさしい取り組みを続けていく、マックスバリュ東海株式会社の今後の活躍に目が離せません。

富士北麓市町村等の富士山関連事業 その7

●富士河口湖町～外国人も楽しめるネイチャーガイドツアー●



青木ヶ原樹海でのエコツアーの様子

ガイド制度を開始し、ガイドのスキルアップを支援しています。

現在、同町を訪れる外国人観光客は、平成18年には年間約172,000人(宿泊者数)。これまでは、主に日本人を対象としたエコツアーでしたが、今後は、外国人観光客も楽しめる環境を整備していく予定です。今年度は、その第一段階として、英語でもガイド内容を伝えることができるネイチャーガイドの養成講座と外国語セルフガイドシートの作成を行い、外国人観光客を受け入れる準備をしています。

幅広い知識とおもてなしの心、そして言語能力が加わったガイドにより、富士山の自然環境を守りながら、その魅力を十分に発信していくことが期待されます。